ブランコで再利用できるの

どを考慮し、安全確保に万

が、今後の使用のされ方な

の強いあなたにピッタリで

(大きな鼻は付けずに

少々酔って出演しても〇 連になれそう。ここなら

> 社会情勢分析に感銘 アルバイト通しての

(市岡元町・60歳女性) 叫んでいいとも!」の

(漢字を知らないのが

全を期す立場から全面更新

こんなところでしっか

ところであり、この点をぜ に沿って作業を進めている

> ホテルの静かなバー。 オー ンダー」がお似合い。高級

ナー 兼バー テンダー のあな

ったんでしょうね?

っているのはテレビのニュ 二の「蟹工船」が話題にな

心が洗われました。

ち、何で政治家なんかにな

-それにしてもこの人た

2面)を読んで。小林多喜

川島未来さんの文章 (前号

緯があります。現在、その③

ムについてはほとんどの

部分などはともかく、 フレ とあったからです。腰掛け

十五基については、今すぐ

演じれば、バカ受け間違い

ですが、東大法学部出身を 間違え、漢字に弱いのが難 会演説で二十六カ所も読み

売り物に、クイズ番組の常

劇場、いやほんまの劇場で

なし。舞台俳優は自己主張

できるようにし、③残り二 に部分的修理を終えて使用

んていかが? それを小泉

ラック」の主人公シラノな 曲「シラノ・ド・ベルジュ

この際「タレント」に。国

中川昭一元財務大臣は

かりませんが、例えば、紙

純粋さに心洗われた 新成人インタビュー

面に紹介されていた支援団

体の活動に参加することな

どを考えてみました。

年も載っていました。 先の

タビュー (前号6面)が今

新成人へのひとくちイン (波除・70代女性)

危険というわけではない

更新されるのは「フレーム と思いました。というのは、 時に、「ちょっと待てよ」 を読んで嬉しく感じると同

ついては平成二十年夏まで

総点検し、②うち十九基に

鎖、腰掛け部分など一式」

全てが三月末までに更新さ コ更新につきましては、①

れるという記事(前号5面)

平成十九年度に港区内の公

園のブランコ全四十四基を

「役者」に。 フランスの戯

して)

小泉純一郎氏はぜひ (池島・勝部泰臣)

もない幸せな毎晩。(客が

ゴキゲンな会話。 何の心配 客が来るとべらんめェ調で

いない時は一人で飲んだり

と (前号1面) に驚きまし

た。自分に何ができるか分

る方が約四款もおられるこ 港区で生活保護を受けてい

銘を受けました。

港区に引っ越して一年。

の公園のブランコ二十五基

謝致します。今回のブラン

転職のすすめ三題

建設的な提言に心から感

す。

使えなくなっていた港区

ブランコ更新歓迎も

り節約すべきではないでし

ひ市民の皆様にはご理解い

ただきたいと思っておりま

ど磨きながら、口もとはゆ たは蝶ネクタイ。グラスな

生活保護の多さに驚く

がめて結んだまま。 親しい

た。このうち、受け入れ職

体験を終えた松浦耀祐君

受付は楽しかった

り、多くのことを学びまし

が三十数カ所の事業所に入

を体験しました。

れていますが、二月中旬に

職場体験学習」が今年

場の一つである港図書館に

市岡中生が職場体験学習

は市岡中二年生約百四十人

書の収納・整理などの業務 ウンター での受付や返却図

ワー 大阪ベイ集会室で

層住宅災害に備え

で災害が発生したら…」-「もし超高層マンション(マンション「クロスタワー クロスタワーで「出前講座」 大阪ベイ」(弁天一)で行な

催しが、区内屈指の超高層 そんな住民の不安に応えた

学んだ「防災出前講座 超高層マンション住民が 地震・津波対策について 座」。住民四十六人が参加、 タワー町会(砂坂信弘会長)われました。二月九日夜、同 催した「港区防災出前講 メカニズム③弁天付近での 地震・津波への備えなどに 生確率が五〇~七〇彩とい から講義を受けました。 が港区役所の協力を得て開 ついて区役所の防災担当者 われる東南海・南海地震の 時間半に渡って行なわ 講義は同タワー 集会室で ①今後三十年以内の発 対策のポイント学ぶ りに頷いていました。 どの内容には参加者がしき やっていることも満足にで ることしかできない②普段 に瀕すると一普段やってい ことは絶対にできない」な きない③普段やっていない

参加者の一人は「大変勉

仕

の喜び、厳しさ

=2月9日夜、クロスタ 交えて示され、最後に質疑 被害予測④避難・備えのポ イント―などがスライドを ションでは地震や津波に遭 いのではないかと思いまし った時、外へ出ない方がよ た」などと話していました。 この催しの世話役として

強になりました。 このマン 度も区内の中学校で実施さ は男子生徒二人が入り、カ

七शだった」「人間は危機 で救出された九五粁は自助 応答がありました。 人・隣人) で、公助は一・ (自力・家族)と共助 (友 中でも「阪神淡路大震災 が最善か②もしマンション してきたのを感じています。 生時にはどの階に集まるの 後の課題として、①災害発 り、取り組みが徐々に浸透 加入された方の参加もあ 動いていた同町会女性部長 事でしたが、新しく町会に 小谷悦子さんは次のよう 町会主催の五回目の行 今日の講義を通じ、今 どが浮かび上がりました。

助け合うか(病気やケガへ 内に孤立した場合にはどう の対応、食料確保等) 一な に実施されるそうです。 ンションの火事」をテーマ から講師を招き、「高層マ 思います。 次回の出前講座は消防署

的確な助け合いに役立つと が、いざという時の迅速・ つを交わし、明るいマンシ ら住民同士が親しくあいさ ョンライフを心がけること いますが、何よりも日頃か 追求していきたいと思って 何ができるのかをこれから えてあげたり、感謝された ーは初め緊張しましたが、 慣れてきたら本の場所を教 を希望しました。カウンタ そんな経験から何となく 『楽しそうやな』と図書館

ことを訊かれるか分からな くると段々面白くなりまし なければならないので、ち た。逆に、受付ではどんな は逆で、本の整理は慣れて 説などを読むのが好きだっ ならないかをその場で考え 館を選んだのは、ホラー小 たからです。 僕は松浦君と また渡辺将希君は「図書 本の整理を楽しめた

難しいと思ったのは、返却 験は進路を考える貴重な材 本を元に戻すこと。この経 りして、楽しくなりました。 料になりました」。

らないこと―などを心がけ 対に他の人に知らせてはな てもらいました」と話して いねいに応対すること、仕 事で知り得た個人情報は絶 ウンターでは一人ひとりて た」と話していました。 選択のプラスになりまし た。この体験は将来の職業 は「生徒さんたちには、カ ょっときついと感じまし 港図書館の中田夕子館長

に図書館に通い、『かいけ つゾロリ』などを読みまく する松浦耀祐君命と渡辺将 港図書館の受付業務を体験 希君生。後は港図書館職員

この点で町会としては

ガ イ



ースでもとり上げられてい なりに分析しているのに感 の彼女が、アルバイトの体 験を通して社会情勢を自分 まだ高校一年生 牲となっている子どもらに と会い、支援金を渡し、励 | ティ施術会。昨年末には施 第八回施術会 (二月二十六 術者の堀川さんが山下さん 会が主催する月例のチャリ 術を支援し、日本気道術学 ズの子どもたちへの癒し施 がタイで行なっているエイ 詳細は☆六五七五——— 又は在勤の高校生以上で初 救いの手を」との呼びかけ ちへの支援チャリティ施術 五十名、多数抽選。申込締切 まし合った。「タイのエイ ンター等。対象は区内在住 全一十回。 トや手話普及ボランティア に、参加者が徐々に増加。 ズの現状を知り、最大の犠 三月二十六日。申込方法等 心者。費用千二百円。定員 九月十七日の木曜十八時四 の養成講座。四月十六日~ 十五分~二十時四十五分。 タイのエイズの子どもた 港区社会福祉協議会へ。 手話奉仕員養成講座・ 山形県の山下文博さん 会場は港区民セ

らないのだと改めて感じ、 社会への誠実な姿勢は変わ しようという姿勢に感心し

の得意な分野で社会に貢献 見えない世の中でも、自分

|日)では「この歳になると センター一階「菊」の間で。 ティアお手伝いさんも募集 という年配女性らが来場 四三三九「快生堂」堀川。 中。20八〇一一四〇四 支援金一口五百円。 ボラン (金)十~十六時に港区民 真。第九回は三月二十七日 体のあちこちが痛んで…」 治療を受けていた―写







